

令和4年度東京都障害者ピアサポート研修 ファシリテーター説明会

東京都福祉保健局 障害者施策推進部 地域生活支援課

1. オリエンテーション

本説明会の目的

- ・ 令和4年度ピアサポート研修全体の構造・目的を共有する。
- ・ 研修における演習を効果的に実施できるよう、ファシリテーターの役割・ポイント・当日の演習の流れを共有する。

1. オリエンテーション

本日の流れ

10:00～10:05 (5)	1 挨拶・オリエンテーション
10:05～10:10 (5)	2 ピアサポートとは
10:10～10:25 (15)	3 ファシリテーター概要
10:25～10:40 (15)	4 障害者ピアサポート研修でのファシリテーターのポイント
10:40～10:55 (15)	5 研修当日の演習の流れ
10:55～11:00 (5)	6 質疑応答(※)

※質疑応答について、時間の都合上、ご質問に後日回答させていただきます。

1. オリエンテーション

研修概要

自ら障害や疾病の経験を持ち、その経験を活かしながら、他の障害や疾病のある障害者の支援を行うピアサポーター及び現場におけるピアサポートの活用方法等を理解した障害福祉サービス事業所等の管理者等の養成を図ることにより、東京都内の障害福祉サービス等における質の高いピアサポート活動の取組を支援することを目的とする。

実施方法

原則、対面

※希望する場合は、オンライン受講も可

※その他、当事者への合理的配慮を踏まえた実施方法を検討

規模

50名規模

※基礎・専門・フォローアップと段階的に受講

※各回25名×2回（区部1回・市町村部1回、1回目と2回目は、同内容）

※1回につき計2日間

1. オリエンテーション

研修の対象

原則として、1施設・事業所で2名ずつ

2名の内訳

(1) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律及び児童福祉法に基づく東京都内に所在する指定障害福祉サービス事業所等において、**ピアサポーター**として従事する者又は従事しようとする者

(2) 上記(1)の者と同一事業所内に所属し、上記(1)の者と協働して**専門職**として従事する者又は従事しようとする者

※専門職とは、ピアサポーターと同じ事業所の管理者、サービス管理責任者等をいう。経営者、現場の監督者のいずれかは問わない。

1. オリエンテーション

本研修で養成する ピアサポーター像

- 障害や福祉制度に関する適切な知識を持っている。
- ピアサポートの意義や効果を十分に理解している。
(ピアサポート＝自ら障害や疾病の経験を持ち、その経験を活かしながら、他の障害や疾病のある障害者のための支援を行うもの)
- 同じような立場にある・同じような課題に直面している仲間として認め合い、共感し、本人に安心感をもたらす。
- 本人にとっての身近なロールモデルとなり、希望をもたらす。
- 管理者等の他の支援者と協働して本人に適切なサポートを実践する。

本研修で養成するピアサポーター と協働する専門職(管理者等)像

- 障害当事者を取り巻く課題を十分に理解している。
- 障害や福祉制度に関する適切な知識を持っている。
- ピアサポートの意義や効果を十分に理解している。
(ピアサポート＝自ら障害や疾病の経験を持ち、その経験を活かしながら、他の障害や疾病のある障害者のための支援を行うもの)
- ピアサポーターと協働して、本人に適切なサポートを実践する。
- 状況を見て、ピアサポーターの配置や安心して働ける職場づくり等に適切な判断を下すことができる。

1. オリエンテーション

研修の全体像

基礎研修

【学ぶこと】

- ・ピアサポートの理解
- ・ピアサポートの実際・実例
- ・コミュニケーションの基本
- ・障害福祉サービスの基礎と実際
- ・ピアサポートの専門性

専門研修

【学ぶこと】

- ・基礎研修の振り返り
- ・ピアサポーターの基礎と専門性
- ・ピアサポートの専門性の活用
- ・関連する保健医療福祉施策の仕組みと業務の実際（障害者）
- ・ピアサポートを活用する技術と仕組み（事業所）
- ・ピアサポーターとしての働き方（障害者）
- ・ピアサポーターを活かす雇用（事業所）
- ・セルフマネジメントとバウンダリー
- ・チームアプローチ

フォローアップ研修

【学ぶこと】

- ・専門研修の振り返り
- ・障害特性
- ・働くことの意義
- ・障害者雇用
- ・ピアサポーターとしての継続的な就労
- ・ピアサポーターとしての効果的なコミュニケーション技法
- ・ピアサポーターとして現場で効果的に力を発揮するための準備

1. オリエンテーション

基礎研修（1日目）

担当外のコマの内容も、研修当日前に確認しておきましょう

項目	時間	国テキスト 改訂版該当頁
オリエンテーション 研修の全体像／基礎研修のねらい	10:20-10:30	
ピアサポートの理解 【講義】 障害領域ごとの歴史や背景／障害領域ごとの視点 【演習】 あなたの考えるピアサポートや、あなたのストレンクス（強み）について、自己紹介を交えながら話し合ってみましょう	10:30-11:00 11:00-12:00	P3
(お昼休憩)	12:00-13:00	
ピアサポートの実際・事例 【講義】 障害領域ごとのピアサポートの実践	13:00-14:10	P7
(15分休憩)	14:10-14:25	
ピアサポートの実際・事例（つづき） 【演習】 経験を振り返り、実践での活かし方などを話し合ってみましょう	14:25-15:05	

1. オリエンテーション

基礎研修（2日目）

項目	時間	国テキスト 改訂版該当頁
コミュニケーションの基本 【講義】ピアサポートの視点を取り入れたコミュニケーション技法や経験の共有 【演習】講義で学んだコミュニケーション技法の実践	10:30-11:10 11:10-12:10	P24
(お昼休憩)	12:10-13:10	
障害福祉サービスの基礎と実際 【講義】障害福祉施策の歴史／障害福祉施策の仕組み 【演習】「どんな活躍の場があるか」「どんな雇用のあり方があるか」話し合ってみましょう	13:10-13:50 13:50-14:10	P28
(15分休憩)	14:10-14:25	
ピアサポートの専門性 【講義】ピアサポートの具体的な専門性／倫理と守秘義務 【演習】ピアサポーターの強み、ピアサポーターと専門職と一緒にサポートすることについて気付きを共有しましょう	14:25-15:55 15:55-16:45	P32

1. オリエンテーション

専門研修（1日目）1 / 2

項目	時間	国テキスト 改訂版該当頁
オリエンテーション 研修の全体像／専門研修のねらい	10:20-10:30	
基礎研修の振り返り	10:30-11:00	P3
ピアサポーターの基礎と専門性 【講義】 経験に基づいた傾聴・共感・受容という特性など	11:00-11:40	P5
(15分休憩)	11:40-11:55	
ピアサポーターの基礎と専門性（つづき） 【演習】 周囲と壁を感じた経験などを振り返り、共有する	11:55-12:55	
(お昼休憩)	12:55-13:55	
ピアサポートの専門性の活用 【講義】 ピアサポートの専門性を活かすための視点／専門性の活かし方（経験を言葉にしてみる方法）の例など	13:55-14:35	P15
【演習】 事例を通じて、当事者の思いに寄り添いながら、どんな支援が必要か考えてみましょう	14:35-15:05	
(15分休憩)	15:05-15:20	

(次のページに続きます)

1. オリエンテーション

専門研修（1日目）2 / 2

項目		時間	国テキスト 改訂版該当頁	
障害者向け 関連する保健医療福祉施策の仕組みと業務の実際 【講義】 関連法／関連施策	事業所向け ピアサポートを活用する技術と仕組み 【講義】 現場におけるピアサポートの活用方法	15:20-16:00	P25	P57
(15分休憩)		16:00-16:15		
(つづき) 【演習】 どんなサービス事業所で働いてみたい？	(つづき) 【演習】 ピアサポーターにとって働きやすい職場とは？	16:15-16:55		
(5分休憩)		16:55-17:00		
障害者・事業所職員別講義・演習内容について共有		17:00-17:20		

1. オリエンテーション

専門研修（2日目）2 / 2

項目	時間	国テキスト 改訂版該当頁		
<p>障害者向け</p> <p>ピアサポーターとしての働き方 【講義】労働者としての権利／働くに当たっての倫理 【演習】困りごとへの適切な対応を意見を出し合い検討しましょう</p>	<p>事業所向け</p> <p>ピアサポーターを活かす雇用 【講義】ピアサポーターを雇用し協働する上での留意点 【演習】あなたの機関で、ピアサポーターと共に働く上での良い部分とは？</p>	10:30-11:00 11:00-11:40	P37	P63
(お昼休憩)		11:40-12:40		

(次のページに続きます)

1. オリエンテーション

専門研修（2日目）2 / 2

項目	時間	国テキスト 改訂版該当頁
セルフマネジメントとバウンダリー 【講義】ピアサポーターが葛藤しやすい状況への理解／病気や障害を抱えて働く上でのセルフケア 【演習】自分の障害、病気や薬を理解するためにしている方法は何でしょうか？／あの時、他者との適切な境界線と距離感（バウンダリー）を意識していればよかった、と振り返ることはありますか？	12:40-13:10 13:10-13:50	P47
(15分休憩)	13:50-14:05	
チームアプローチ 【講義】所属機関（チーム）におけるピアサポーターの役割と協働における留意	14:05-14:45	P52
(15分休憩)	14:45-15:00	
チームアプローチ（つづき） 【演習】チームによる支援において、どのような工夫が必要だと思いますか？／チームの構成員・ピアサポーターの役割について考えてみましょう	15:00-16:00	

1. オリエンテーション

フォローアップ研修（全2日間）

項目（調整中）	時間(調整中)
専門研修の振り返り	30分
障害特性 【講義】 障害領域ごとの障害特性	60分
働くことの意義 【講義】 ピアサポーターとして職場にもたらす効果 【演習】 講義の振り返り・気づきの共有	30分 60分
障害者雇用 【講義】 障害者雇用の実際と留意点 【演習】 講義の振り返り・気づきの共有	40分 60分
ピアサポーターとしての継続的な就労 【講義】 ピアサポーターとしての能力を発揮し働き続けるために必要なポイント	60分
ピアサポーターとしての効果的なコミュニケーション技法 【講義】 職場内や関係機関との連携の中で発信力を高めることによる専門性の発揮方法 【演習】 講義の振り返り・気づきの共有・事例検討等	60分 70分
ピアサポーターとして現場で効果的に力を発揮するための準備 【講義】 ピアサポーターとして雇用される上での準備／留意点 【演習】 講義の振り返り・気づきの共有	30分 40分

2. ピアサポートとは

仲間としての支え合い

- ピア = 同じ立場にある仲間
- ピアサポート = 同じ立場にある・同じ課題に直面している仲間としての支えあい
- 障害領域のピアサポート = 自ら障害や疾病の経験を持ち、その経験を活かしながら、他の障害や疾病のある障害者のための支援を行うもの
- ピアサポートの有効性
 - 【心理的なサポート】 共感、安心感
 - 【体験的なサポート】 体験してきた強み、実践から得た情報
- ピアサポーターの強み
 - 支援する相手と同じ課題に直面してきたという立場

3. ファシリテーター概論

ファシリテーターとは

- ファシリテート (facilitate) という言葉には、「容易にする」「楽にする」「促進する」といった意味があります。
- 何らかの事柄を円滑に進むよう支援する働きを「ファシリテーション」といい、そのために動く人のことを「ファシリテーター」といいます

3. ファシリテーター概論

当日は、以下の三者が連携しながら演習を進めます

演習統括者

- ・全グループの討論の内容及び演習プログラムの進行管理を行い、教室を統括する。
- ・教室内の受講者に対して知識を付与する。
- ・演習進行者への助言を行う。

【7月19日事務局修正】

・検討会委員の意見を踏まえ、「演習指導者」から「演習進行者」に修正

演習進行者(ファシリテーター)

- ・演習プログラムに沿って、グループ討議を進行及び促進する。
- ・演習統括の助言を受けながら、グループ内の受講者に対する助言等を行う。

研修事務局(東京都)

- ・研修の運営を担い、事務的、環境的部分をサポートする。

研修前、演習中、休憩中、研修後に積極的にコミュニケーションを図り、連携に努めましょう！！

ファシリテーターの方へ

グループワークをファシリテートする上での留意事項

- ❑ 参加者の中には「グループワークがはじめて」という方もいます。アイスブレイクを行うなどして、場の雰囲気を温めましょう。
- ❑ 参加者から意見を引き出す立場であることを意識し、ファシリテーターが話しすぎないようにしましょう。
- ❑ 参加者同士の意見の対立があった際には、どちらも否定せず、柔軟に対応しましょう。
- ❑ 遠慮がちな方がいたら、意識的に声掛けをし、参加者が均等に話ができるよう配慮しましょう。

各演習で、最低1回ずつ、参加者の方が発言できることが理想です。

もし、1人の方が話し続けてしまう場合は、時間で区切って、次の方に話を譲っていただくなどの柔軟な対応も必要です。

演習統括者の方へ

グループワークを統括する上での留意事項

- 演習内容の説明時は、教室配置上、スライドが見えづらい席が発生するかもしれません。スライドの読み上げ以外にもポイントを何度か口頭で伝えるなど抑揚をつけた説明をしてください。
- 時間管理の徹底と状況に合わせた時間配分の調整をお願いします。
- グループワークが始まったら、適宜、各グループを周回してください。
- 各グループの場の雰囲気を確認し、緊張感をほぐして場を温めるサポート役に努めてください。
- ファシリテーターと適宜情報を共有する時間をもうけて、個別で伝えることと教室で伝えることを整理し、フォローをしあってください。
 - (例①) Aグループの●●さんが場に馴染めていない様子…
⇒ Aグループのファシリテーターに個別に伝えましょう。
 - (例②) 議論が白熱し全体的に時間が押している…
⇒ 「あと何分で演習終了です」と教室全体に伝えましょう。

3. ファシリテーター概論

研修事務局

研修実施に当たってのファシリテーターへの事前の配慮について

配慮が必要なこと

ファシリテーターも緊張する！
ファシリテーターの緊張感の緩和が必要



対応策

- ・ファシリテートする上での留意事項を事前に共有
- ・演習で想定される参加者からの疑問への対応案などをまとめ、**ファシリテーター用手持ち資料**として提供

配慮が必要なこと

担当するグループの参加者について
どんな人が参加するかわからないと不安



対応策

- ・当日担当するグループの参加者の情報（障害領域、ピアサポーターとしての経験値、研修への付き添いの方の同行有無、受講目的等）を、事前にファシリテーターに共有

4. 障害者ピアサポート研修でのファシリテーターのポイント

1. ピアファシリテーター・専門職ファシリテーターそれぞれの役割
2. 受講者（障害当事者）と接する上で留意すること
3. 異なる障害領域からの学びの姿勢

4. 障害者ピアサポート研修でのファシリテーターのポイント

1. ピアファシリテーター・専門職ファシリテーターそれぞれの役割

- ・本研修では、**ピアサポーターと専門職が2人1組**となって各グループでの演習をファシリテートします。
- ・**ピアサポーターと専門職の協働**が、本研修の狙いの1つ。
演習のファシリテーター自身が、ピアサポーターと専門職で協働することを受講者の目の前で実践することで、協働のあり方の1つのモデルを示すことができます。

ピアファシリテーター	ピアサポーターの持つ 経験 （ピアサポーターとしての経験、障害とともにある生活やリカバリーに至った経験）から、受講者の話を聞き、語りを促していく。
専門職ファシリテーター	支援者としての経験や専門性 から、受講者の話を聞き、語りを促していく。

4. 障害者ピアサポート研修でのファシリテーターのポイント

2. 受講者（障害当事者）と接する上で留意すること

【研修前日までの準備】

- ・ **担当するグループの障害当事者に関する基礎情報の把握**
障害領域、ピアサポーターとしての経験値、研修への付き添いの方の同行有無、受講目的などを、事前に事務局より提供します。

4. 障害者ピアサポート研修でのファシリテーターのポイント

2. 受講者（障害当事者）と接する上で留意すること

【研修当日】

・ 1人の人として接する視点

障害はその人の全部ではなく一部分。その人の障害よりも、まず人として接する視点を持ちましょう。

各受講者の「ストレングス（強み）はどこにあるのか」を意識しながら接しましょう。

・ 人によって理解の速度・理解したことの外部への表明の仕方は様々

ゆっくり抑揚をつけて話す・問いかけ後すぐに答えが返ってこなくても少し待ってみる…など、受講者の理解度に応じた進行を。

受講者の中で「置いてきぼりになっている人がいないか」確認しましょう。（相槌を打っている様子、メモを取る様子などを確認）

★困ったときは、研修受講者向け「グループワークでのルール」（次頁）に立ち返りましょう。

4. 障害者ピアサポート研修でのファシリテーターのポイント

(本スライドの内容は、研修当日のオリエンテーションで事務局より説明することを想定しています)

【研修受講者の方へ】グループワークでのルール

～みんなで安心してこの研修に参加するために～

- グループに主体的に参加しましょう。
- しっかり聴く姿勢を心がけましょう。
- もちろん、内容によっては「パス」という選択もあります。
- 一人ひとりの考えを尊重しましょう。
- どのような意見や発言も批判や否定をしないで傾聴しましょう。
- 時間をひとりじめするのではなく、わかちあいましょう。
- お互いの信頼がなければ話はできません。参加者個人の情報も、その場において帰り、他人に話したりしないようにしましょう。

4. 障害者ピアサポート研修でのファシリテーターのポイント

3. 異なる障害領域からの学びの姿勢

- ・東京都の障害者ピアサポート研修は、障害領域別ではなく共通内容で実施します。

- ・そのため、研修を通して、障害領域を超えた意見交換や相互理解の充実も狙っています。

- ・「各障害領域に共通して伝わりやすいか」という視点で、必要に応じてカリキュラム上の表現の工夫も行いました。

たとえば…

「セルフマネジメントとバウンダリー」

⇒「ピアサポーターが葛藤しやすい状況」

「バウンダリー」

⇒「他者との適切な境界線と距離感」

「リカバリー」

⇒「障害や病気のある者がありのままの自分らしく生きようとする」

「リカバリーストーリー」

⇒「経験を振り返り言葉にしてみること」

4. 障害者ピアサポート研修でのファシリテーターのポイント

3. 異なる障害領域からの学びの姿勢

精神障害	脳および心の機能や器質の障害によって起きる精神疾患によって、日常生活に制約がある状態
身体障害	生まれつきや生まれた時の先天的あるいは主に病気や事故の後遺症などで後天的な理由で、身体機能の一部に障害を生じている状態
知的障害	<p>知的障害とは、一般に、同年齢の子供と比べて、「認知や言語などにかかわる知的機能」の発達に遅れが認められ、「他人との意思の交換、日常生活や社会生活、安全、仕事、余暇利用などについての適応能力」も不十分であり、特別な支援や配慮が必要な状態（文部科学省表記）</p> <p>知的機能の障害が発達期（おおむね18歳まで）にあらわれ、日常生活に支障が生じているため、何らかの特別の援助を必要とする状態（厚生労働省表記）</p>

4. 障害者ピアサポート研修でのファシリテーターのポイント

3. 異なる障害領域からの学びの姿勢

難病	発症の機構が明らかでなく、治療方法が確立していない、希少な疾病であって、長期の療養を必要とするもので、患者数等による限定は行わず、他の施策体系が確立されていない疾病（難病法による難病の定義）
高次脳	高次脳機能障害といっても、受傷・発症によっておこる脳の損傷部位や程度により様々。最も多いのが記憶障害。

5. 研修当日の演習の流れ

【事前準備】

■ 役割分担を決める。

ファシリテーター①	・ 司会進行、タイムキーパー
ファシリテーター②	・ 書記

【当日】

① 司会進行、タイムキーパー

- ・ 演習統括者から提示された時間配分に沿って進行
- ・ 意見を聞き出す、意見をまとめる、意見を整理する
- ・ ファシリテーターが話しすぎないように注意
- ・ 時間内に合意形成⇒クロージング

② 書記

- ・ 書きながら意見をまとめる、意見を整理する（グルーピングなど）
- ・ 書くことに集中しすぎず、司会のサポートを（受講者への相槌、呼び水となる振りの質問）

6. 質疑応答

本日は、ご参加いただき大変ありがとうございました。
研修当日も、どうぞよろしくお願いいたします。